

協同

[特集] JA組織基盤強化に向けたJAくらしの活動の実践について

2021
June
KYODO 6

兵庫の農業人
HYOGO-NOUGYOUJIN



タッグ! 兵庫の農業人

青壮年部「学童農園」を通じて
地域に根ざした活動を拡大

Farmer × JA staff
花房 宏俊さん
佐久間 瞳さん
詳細は
裏表紙へ

兵庫の農業人

生産者の皆さんとタッグを組んだ
多様な営農活動を紹介します。

タッグの様子は動画でも配信中心!

▶ YouTube で [兵庫の農業・農協発信ch](#) 検索



今月は **JA兵庫南**

青壮年部「学童農園」を通じて 地域に根ざした活動を拡大



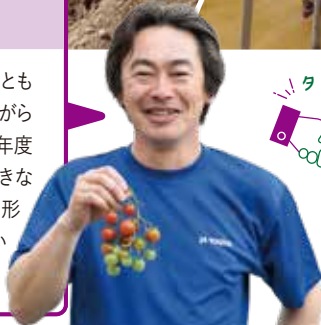
サツマイモの収穫を行う天満小学校1年生の皆さん(左)
ゲストティーチャーとして授業を行う青壮年部員(右)



生産者

JA兵庫南青壮年部
委員長
花房 宏俊さん

青壮年部が40周年を迎えたこともあり、今までの歴史を振り返りながらまとめていきたいです。また、昨年度のコロナ騒動で十分に活動できなかったため、青壮年部を新しい形でまとめつつ、新規参入しやすい環境づくりを行っています!



JA職員

JA兵庫南 営農経済部
アグリ支援課
佐久間 瞳さん

青壮年部員が栽培する野菜や果樹、花といった幅広い作物が、より多くの消費者の皆さんに魅力が伝わるように、今後も青壮年部をサポートしていきます!



加古郡稲美町の若手農家を中心に、25人で構成されたJA兵庫南青壮年部は、長年にわたり、農業を通じて地域に根ざした社会貢献活動に積極的に取り組んでいる。

JA兵庫南で営農経済業務を担当している佐久間瞳さんは、2年前からJA兵庫南青壮年部の事務局を担当し、委員長の花房宏俊さんをはじめ青壮年部員と共に学童農園の取り組みに力を入れている。

学童農園は、青壮年部が発足するきっかけとなった活動であり、地元小学校の児童への「食農教育活動」として今年で40周年を迎えた。青壮年部員による米作りについての出前授業やかかし作り体験、田植えや稲刈り体験を通して、児童に農業の楽しさや親しみやすさを伝えている。

2年前からはサツマイモに関する学童農園も実施し、参加する児童数は年間39人から178人へと大幅に増加した。また、収穫した農作物を学校給食に提供する際の洗浄等の作業はJA管内の福祉事業所に依頼しており、「働く人を求めている農業」と「働く場を求めている福祉」を結ぶ

「農福連携」にも繋がっている。

学童農園に関して、花房さんは「出前授業を通して、子どもたちが農業に関する質問を積極的に行う姿や、圃場で楽しそうに収穫する姿を見て、いい刺激になっている」と話す。一方、佐久間さんは「近年は、過去に学童農園に参加した経験のある人が親となり、自身の子どもの活動の様子を熱心に圃場まで見学に来るといった地域に根付いた取り組みとなっている」と話す。

「学童農園」を通じて『食農教育活動』や『農福連携』など地域の子供たちや障がい者に寄り添った活動を、青壮年部とJA兵庫南が連携して続けていく。

学童農園における前々年度からの取り組み拡大

新たに**サツマイモ**による**学童農園**を実施し、さらなる地域密着型の活動へと発展

参加児童数
39人 ▶ **178人**

活動総期間
40年